

# 「さあ、みんな、考えよう」

## 「なぜ学ぶのか」 柘植中文化祭より学ぶ

11月3日(金)に柘植中学校文化祭が行われました。午前中の各学年の発表は、柘植中での「学び」から感じたこと、自分たちを見つけたこと、自分たちのこれからについてなどの熱い思いが満載でした。

昨年度の2月発行の本通信に柘植中生ならあたりまえのように誰でもできる3つの「柘植中スタンダード」、本年度の9月号にかつての生徒の人権作文「私が変わっていった理由」について掲載しました。柘植中学校の文化祭の生徒の語りや思いのなかにはこれらの発信もしっかりと入っていました。

「私たちはなぜ学ぶのか」 柘植中生の発表を聞いていてみなさんと考えたいと思いました。みなさんは「なぜ学ぶのか」と聞かれたら、どのように答えますか？当然、人それぞれにいろんな考えや願いがあり、正解は1つではありません。では文化祭で柘植中生はどんなことを語ったのでしょうか。

### 「さあ、みんな、考えよう！」

### 11月、12月の講演会や研修会の案内

- 11月10日(金) いがまち人権センター解放講座 (19:30～21:00) いがまち人権センター  
「障害者差別解消法の社会的周知、理解と法的課題」(松村元樹さん) [反差別・人権研究所みえ]
- 11月18日(土) 差別をなくす強調月間 阿山・人権トーク&コンサート (13:30～) あやま文化センターさんさんホール  
「自分らしく生きる」(LGBT) (悠以さん) [シンガーソングライター]
- 11月25日(土) 差別をなくす強調月間 青山・人権講演会 (13:30～) 青山ホール  
「ここに生まれてきてよかった」(土田光子さん)
- 11月25日(土) 人権が尊重される三重をつくる条例制定30周年記念事業 (13:30～) 三重県人権センター  
お笑い人権高座(露の新治さん) 人権ライブ(露の新幸さん) 落語(露の新治さん)
- 11月26日(日) 差別をなくす強調月間 大山田・講演&ライブ (13:30～) 大山田農村薬草改善センター  
「俺から私 ～嫌だった過去が好きに成れた～」(悠以さん) [シンガーソングライター]
- 11月28日(火) 2017部落解放・人権大学講座 (19:30～21:00) ゆめぼりすセンター  
「差別意識のカラクリ」(奥田均さん) [近畿大学人権問題研究所]
- 12月2日(土) こどもわかもの育成支援のための研修会 (14:00～15:30) ハイトピア伊賀  
「子どもの人権～身近な大人にできること～」(稲垣満佐代さん) [反差別・人権研究所みえ]
- 12月8日(金) 差別をなくす強調月間 差別をなくす いがまちの集い (19:30～) ふるさと会館いが  
「わたしと部落問題」(小西愛里紗さん)
- 12月9日(土) 差別をなくす強調月間 人権を考える市民の集い (13:30～) 伊賀市文化会館  
「生きづらさの乗り越えるいくつかのヒント」(雨宮処凜さん)
- 12月21日(木) 2017部落解放・人権大学講座 (19:30～21:00) ゆめぼりすセンター  
「人権力を育む大人の役割」(明石一朗さん) [関西外国語大学]

# 「**柘植中スタンダード**」

柘植中スタンダードは「柘植中学校の生徒ならば当たり前のように誰でもできること」である

- ① あいさつをする
- ② 自分ごととして、人権学習に取り組む
- ③ 自分の意見や意思が、しっかり言える

## 3年生のステージ発表(劇)にこめられた思い 「3年生→CHANGEへの道 ~たくさんの出会いを通して~」

3年生は、自分たちが今までの学びのなかで培ってきたことをもとに、悩んだこと、語り合ったありのままの姿を題材にステージ発表してくれました。

### ◎なぜ学ぶのか ステージ発表冒頭の語りより

「沖縄修学旅行で命の重みを学び、天王寺夜間学級やしらすぎ識字学級で、学び続ける大人の人たちと出会い、たくさんの生き方を学んだ。そしてその出会いや体験からなにかまへの思いを考え、自分の生き方、進む道を考えた。」

### ◎なぜ学ぶのか 体育祭から修学旅行へのセリフより



「体育祭でオレらが選んだ曲「サイレント・マジョリティー」ってさ、「だんまり決め込んで行動せん多数派」みたいな意味でもあるやん。いつもやったら決まった人ばかりに頼って、サイレント・マジョリティーになってしまってたん。でもよう考えたら、オレら修学旅行のとき、クラスミーティングで全員話せた。あのとき、2時間以上やってたのに、もっと時間ほしいって思うぐらいやった。真剣にすることが楽しいと思えた実感があった。クラ

スがワンチェンジした瞬間やった」

### ◎修学旅行でのクラスミーティングの場面より

「私たちの修学旅行のテーマ、そして学級目標は「One Change / One Challenge」です。沖縄修学旅行では「沖縄の地で戦争の悲惨さ、そして平和がどれほど大切かを実際に感じる」と、「今、平和な日常があることや自分が生きていることが当たり前でないということに気づくこと」ができると思いました。一人ひとりが自分のことを見つめ直して伝え、相手の思いを聞き、受けとめる。今から自分がワンチェンジ・ワンチャレンジしたことを伝えあおう」



みんなの語りには、沖縄で聞きとった戦争体験者の思い、沖縄戦でたくさんの方々が逃げ込んだガマに入って感じたことなどから「人権問題を自分事として考え」、それらのことから感じたこと、自分自身を見つめたことを語り、今まで言えていなかったみんなへの思いを語り合った。

◎なぜ学ぶのか 天王寺中学校夜間学級生との交流での夜間中学生の語りの場面から

「小さい頃から働いていたから、学校に行けへんかって、たくさん苦勞したわ。子どもができて、孫ができて、孫の小学校の入学式についていたら、夜間中学校のポスターを見つけてん。それで入学することに決めたんよ。子どもたちも喜んでくれて、孫に「おばあちゃん、学校に行けるようになってよかったなあ」って言われて、涙が出たわ。今は孫と一緒に漢字の勉強してるで。」



「字を覚えて自信がついてきたのかなあ。今は「もっと知りたい!」っていう気持ち強いから、自分から先生に質問してんねんで。昔の自分では考えられへんわ。それに、こんなに明るい友だちとも出会えて、毎日通うのが楽しみなんよ。」

「一人ではなかなかやる気であへん。でも、学校へ来たたら、一緒に考えてくれるなかまがいる。夜間学級へ通っててな、人との輪ってほんま大事やと思うで。なかまがいるから頑張れる。今、学べているのは、なかまに感謝、学校に感謝やで。」

「これも100点満点。あれも100点満点は難しいから、若いうちにいろんなことをやってみることやね。いろんな経験を積んだら、自分だけの持っている物が見えてくると思うわ。」

◎なぜ学ぶのか しらさぎ識字学級生との交流をふりかえった場面でのセリフから

「おばあちゃんたちが昔、厳しい差別の中で、自分のふるさを言えなかったのが、識字学級で学んでいくうちに誇りを持って言えるようになったって。ほくらもクラスと一緒に考えていくうちに、言にくいことも言えるようになっていきな。」

「今まで自分は将来のために勉強してると思っていたけど、識字学級では「差別をなくすために」「自分をとりもどすために」勉強するっていう考え方を聞いた。オレらも自分のために勉強しつつ、そういう生き方の勉強でもあるんやな。」

「みんなで正しいことを知ったり、自分のことを話したりして、なかまの輪を広げていくことって大事やと思ってる。」

「このクラスでまだまだ話していきたいことがある。もっと自分のこととか、家でのこととか、何でも打ち明けられるようにしていきたいわ。高校でばらばらになっても、この柘植中のなかまに相談できるような関係がいい。」

みなさんが住むこの柘植の地には、さまざまな出会いを通して「自分事として人権学習に取り組む」「自分の意見や意志が、しっかり言える」中学生がたくさんいます。この宝物を大切に、みなさんも柘植に住む近所の中学生と人権について語り合ってみませんか。この中学生の学びから、私たち大人も学び、気づき、考え、そして「One Change One Challenge」できることを考えて、行動に移してみませんか？

文責・橋本浩信

「人権問題に関する柘植地域住民意識調査」へのご協力ありがとうございます。今回、各家庭でまとめて封筒に入れる方法をとりました。もし、各個人で別々に封筒に入れることを希望される場合は、柘植地区市民センターに封筒の予備がありますのでご連絡下さい。各家庭で準備した別封筒を利用していただいてもかまいません。郵便ポストには入れないようお願いいたします。

# 第38回「部落問題を考える保護者の集い」

去る10月21日(土)、いがまち人権センターで、「語り合おう 親として 部落問題を」をテーマに『集い』が開催され、いがま치의保育園・小中学校の保護者がおよそ100名が参加し、話し合い活動が行われました。

全体会では、前川父母の会から3名(若い世代のお母さん)がパネラーとして、自分自身の部落問題に関わる体験や思いをマイクを通して話してくれました。その話の中には、

**「自分の祖母が識字学級に通う中で、『自分の孫の代にはそんな(差別を受ける)思いをさせたくないから、勉強している』と書いていたが、孫の私たちの代になってもまだ差別が残っていて…。だからこそ、みんなで差別をなくすために…」**

という投げかけもありました。本当は言いたくないこと、言いたくない体験けれども、みんなに知ってほしい、わかってほしい気持ちをふりしぼって伝えてくれたことを、私たちは受けとめたいと思います。

その後、9つの分散会に分かれ、参加者自らが、部落問題をはじめ、さまざまな人権問題に関わる共通・類似した体験や思いを重ね、暮らしの中で、自身が生きづらさを感じてきたこと、他者が生きづらさを感じたことを振り返り、これからの生き方や子育て等についても語り合い、共感し合う話し合い活動が活発に行われました。

家庭や地域で、子どもたちの学校でのさまざまな学びを肯定的に応援できるよう、また、おとな自身も反差別的ななかまとして、地元でつながっていきけるきっかけをいただける、この『集い』をこれからも大切にしていきたいです。

## 人権メッセージ募集

(三重県人権センターホームページより)

～ あなたの人権に対する思いを100文字程度のメッセージにしてみませんか ～

三重県では、差別のない明るく住みよい社会の実現をめざして、さまざまな啓発活動に取り組んでいます。そのひとつとして、人間の尊厳や自由と平等の大切さを訴えるために、私たちの身近で感じた(体験した)できごとから、自分自身がどう考え、どう行動するのかを表現した「人権メッセージ」を募集します。

### 募集するメッセージ

形式は自由です。(おおむね100字程度で) 自作かつ未発表のものに限ります。

### 応募対象

三重県内にお住まいの方、お勤めの方、通学の方ならどなたでも応募いただけます。

### 応募期間

2017(平成29)年5月1日から2018(平成30)年3月15日まで

### 郵送(FAX)で

郵便番号、住所、名前(ふりがな)、電話番号を明記して、下記まで応募してください。

〒514-0113 津市一身田大古曾693-1

三重県人権センター「人権メッセージ」係 FAX 059-233-5511

### メールで

三重県人権センター jinkenc@pref.mie.jp まで送付してください。